

保育構想案

4歳児 そらぐみ (男児 15名 女児 15名 計 30名)

奈良教育大学附属幼稚園 研修教諭 辻野伽菜実

1. 活動名

「クラスのいろんな友達とふれあって遊ぼう」

2. 子どもの姿と読み取り

・登園後友達の顔を見て挨拶を交わすなどする時間が楽しい様子で早く友達と遊びの続きがしたい、気の合う友達と一緒に遊びたい気持ちがあるのか身支度を素早くして自分の好きな遊びに向かっていく。友達の存在がよく見えて意識が向いている。遊ぶためという目的を持って身の回りの始末を早くしようとしている。

・ここ数日年長児が遊んでいる鬼ごっこ(氷鬼、鬼ごっこ)やリレーの仲間に入れてもらい遊んでいる。ルールも教えてもらい遊び方もよく理解していて、氷鬼で捕まった時に「誰か助けて」などと周りの友達に声を掛け合う姿が見られる。自分の思いを相手に伝えることができている。また年長児が自分たちより面白くて楽しそうな遊びの発想を持っているので憧れの気持ちを持っている。

・気の合う友達と一緒にイメージを共有してサーキットを作っている様子で通りすがりの友達が気になって遊びに興味を持ち一緒にその空間でサーキットのコースがより面白くなるように道具などを組み合わせて工夫して遊んでいる姿がある。同じ場所で遊んでいる友達に自分の考えを伝えていて、相手の立場になって思いを受け入れることが出来るようになりつつあり一緒に考えて遊べるようになってきている。

・積み木を使って家やおばけ屋敷や飛行機などどんどん積み木の形に触れていくとアイデアが湧いていくのかイメージを形に表して作っていて建物を縦や横に長くして屋根をつけて中くぐったり上を渡って通れたりできるように工夫している。一人では作れないものは相手に協力してもらうために自分の思いついたことをその場で遊んでいる友達に伝えて難しい部分は手伝ってもらい形に表そうとしている。それを受けて友達も相手の困り感を自分事と捉えて行動に移すことが出来ている。

・椅子取りゲームは、自分が座れなくても勝ち残っている友達を応援している。終盤に今日の上位を決めるときは、友達の足の下をくぐって椅子までたどり着くようになってきているので椅子に座れなかった子どもたちも最後までゲームに参加できて楽しんでいる。ゲームの後に「今日は一番上の台に乗れなかった、悔しい、うれしい、楽しかった」などとみんなの前で気持ちを伝えていた。積み重ねてしている遊びで要領を掴んできているのでだんだんと勝敗が分かるようになってきていてゲームの意味を深く分かってくるようになってきており遊びが楽しい面白いと感じている様子が伺える。みんなの前で気持ちを表出することが出来るようになってきていて、また友達の話も聞こうとできるようになってきた。

・製作コーナーでは、スズランテープ、ハサミ、ペン、折り紙、廃材を用いて自分の好きなように違う場所で遊びに用いるものや友達と同じものを作って遊んでいる。

製作の好きな子どもたちの中で三つ編みのできる子がいて3色の色のスズランテープを選んで先を机や台の部分にセロハンテープで止めて声に出しながらきれいに編んでいる。三つ編みができる様子に友達が「どうやってするの、教えて」と頼み作ってもらったり一緒に同じものを隣で見ながら作ったりする姿がある。自分ができないことができる友達に魅力を感じて自分も友達と同じように作ってみたいという思いがあるからか難しいことにも挑戦しようとしている。友達が出来ないことに対してその子がどうしたらできるのか考えて相手の立場に立って伝えようとしている。

・気の合う友達と一緒に自分たちの遊びに必要な道具を揃えて自分たちが気に入った場所（テラス、丸芝生、鉄棒下など）でおままごとをする姿がある。また、砂場では友達と砂に穴を掘るという目的や桶に砂を詰め込む遊びなどをしている。友達と共通のイメージを持って自分たちで決めた目的に向かって遊ぼうとしている。

・歌を歌うときにみんなで声が重なって楽しくなってきた。大きな声で歌うようになってきた。クラスのみんなで歌うことによって声がそろい一体感が生まれて歌うことが楽しくなっている。

・遊びの振り返りで今日の楽しかったことを発表する時間に積極的に手をあげて発言する子どもが増えてきている。みんなの前で話すことで話を聞いてもらう喜びを感じているようだ。遊びの振り返りを受けて、友達の影響を受けて午後の遊びや次の日の遊びに活かされている。友達の発表内容をよく聞いていて自分もやってみようと思っているようだ。

特性

(A児)

・クラスの友達が作った積み木の家やサーキット遊びのコーナーなどの遊び場に興味を持っていて、実際に中に入ったり積み木の上に乗ったりなどして遊んでいる。目に入って楽しそうと感じた遊び場には、自分から入っていき、そこで遊んでいる友達の存在を感じながら自分の好きなように遊んでいるようだ。

・砂場で足漕ぎ車埋める遊びを思いついて遊んでいた。片付けの時は、保育者と一緒に水で汚れた車を洗車している。洗車が終わって最後に「乾かそうね」と保育者に声を掛けられると太陽の方を指さして車を地面に置いた。少しずつ簡単な言葉の意味と動作が一致してきて少しずつコミュニケーションが図れるようになってきている。

(B児)

・片付けの時は、みんなと一緒に自分で遊んでいない場所の片付けもしようとしていて重い積み木も一つずつ運んで元の場所に戻そうとしていた。今、何をやる時間なのか理解できていて片付けもしないといけないこともわかっていて出来ることは意欲的に取り組もうとしている。

・製作が好きで気の合う友達と同じ色のペンや同じ色の絵を描いて遊ぶ日もあれば自分一人でお絵かきや折り紙をして好きなものを作って遊びに集中している時もある。構ってほしくない時や手を出さないでほしい時、仕草や簡単な単語で思いを伝えている。自分の意思がしっかりしていて気持ちを相手に伝え自分の思いを通そうとしている。

(C児)

・簡単な言葉が発音出来るようになってきていて外で友達が楽しそうに電車ごっこや森で探検して遊んでいる集団を見つけ仲間に入れてほしいとき「入れて」と自分から積極的に関わっていき思いを伝え友達に受け入れてもらい一緒に遊んでいる。簡単な言葉で友達や保育者と意思疎通が出来て人と関わって遊ぶことの楽しさが分かってきているようだ。

・好きな絵本の簡単な言葉の部分だけ声に出して読んでみて絵も見ながら楽しんでみている。簡単な文字が読めるようになっていて自分の声に出して読むことが面白いと感じているようだ。

3. 目指す子ども像

○クラスの友達の存在を感じたり意識したりしてみんなと一緒にする活動の楽しさを味わえるようになる。

○自分が感じたり、思ったりしたことを人に自分なりの表現の仕方で伝えられるようになる。

○クラスの友達の目的に触れて、受け止めて友達の考えを受けて遊びに活かされるようになる。

4. ねらい

○同じ場所で遊ぶ友達の思いや目的に触れて一緒に遊ぶ。(知識及び技能の基礎)

○自分なりの表現の仕方でも思いを伝えながらいろんな友達と関わる。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

○クラスのいろんな友達と関わって目の前の相手とふれあい遊びを楽しむ。

(学びに向かう力、人間性)

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性
①歌に合わせて自分の手や友達の手を叩こうとする。 ②目の前にいる友達のことを考えてタッチしようとしている。	①友達と関わる時に自分なりに言葉や仕草で思いを友達に伝えて関わろうとする。 ②目の前の友達の思いを聞いたり、動きを見たりして工夫して遊ぼうとしている。	①歌のリズムに合わせて、自分の手や友達の手を叩こうとする。 ②ふれあい遊びを一緒にする友達を自分で見つけようとしている。

6. 環境構成

○活動内容の設定理由

みんなと一緒にする活動や自ら選択する遊びのときに気の合う人だけでなくその場にいた友達のことも見えてきて自分の思いを伝えることや相手の立場も考えて話も聞けるようになっている。よって友達関係も新しく出来てきている。今回、気の合う友達だけでなく自分のそばにいる友達とも関わって目の前にいる人のことを思いやることなど協調性が育つ遊びが出来れば良いと考えて設定した。友達と一緒に向かい合って遊ぶことで友達に親しみを感じられることが出来て、リズム感のあるふれあい遊びをすることで友達と息を合わせるために相手のことも思いやり考えて自分の動きをコントロールすることも学べる機会になると考えた。活動は、季節柄クリスマスを意識してみんなが知っている「星」を題材にした歌「キラキラ星」の歌の合わせ自分の手を2拍叩いて1拍は友達とタッチする遊びをする。はじめは、自分の手を2拍叩き1拍は自分の体をタッチするやエアでタッチする遊びなど単純な動きを「トントンパ」という3拍のリズムを繰り返して感覚を掴めるようにしていく。そして「キラキラ星」歌に合わせてふれあい遊びをする。遊びはじめは、一人でやってみて、慣れてきたら人数を増やしていく。場所は、少人数でするふれあい遊びなのでゆったりした雰囲気を楽しめるように保育室で行う。

○教材について

- ・子どもがイメージしやすい星が出てくる「キラキラ星」の歌を選んだ。
- ・「トントンパ」の3拍のリズムではじめは、手を2拍叩き、1拍は自分の体をタッチする遊びをして楽しみ、慣れてきたら友達と向かい合ってタッチすることでリズムを掴むことが出来る。
- ・自分から友達へ広がっていく遊びになるので新たな関係が結ばれるきっかけになる。
- ・色々な友達と触れ合うことで目の前の友達に親しみを持つことが出来てタッチする行為を取り入れることで相手に合わせるために思いやる気持ちが生まれて自分の動きをコントロールしようとする力が育つ。
- ・相手のことを考えて目の前の友達と息を合わせることで最後まで歌に合わせて出来たという達成感が

味わえる経験が出来る。

○展開の工夫

- ・初めてする遊びなのでまずは「トントンパ」の3拍のリズムを身近に感じてもらえるように自分の体を使って遊ぶ。
- ・加配が必要な子どもたちも自分の体をタッチする遊びを通してみんなと同じ動きができて楽しいと感じられるように自分でもできそうな単純な動きを取り入れた。
- ・体遊びをした後は、「キラキラ星」の歌に合わせてゆっくりのペースで手遊びをする。
- ・近くの友達と2人組になって向かい合い、ゆっくりのペースでふれあい遊びをする。
- ・加配が必要な子どもは安全に遊べるように保育者が必要に応じて隣について他の友達と関われる範囲で遊ぶ。
- ・2人組にすることで目の前の友達と息を合わせてみることの楽しさが感じられるようにする。
- ・2人組は色々な友達と関われるように何度かメンバーを変える。
- ・人数が増えても大丈夫そうなら段階を踏んでメンバーを増やしてみる。
- ・最後は遊びをみんなで簡単に振り返る。

7. ESD との関連

○活動を通して養いたい ESD の視点

多様性

ふれあい遊びを通して気の合う友達だけでなく、色々な友達と触れ合うことができ友達の輪が広がるきっかけになる。

相互性

何度かふれあい遊びを一緒にする友達を変えたり、人数を増やしたりすることで気の合う友達から始まりだんだんと互いに働きかけ合えるようになっていくことに繋がる。

連携性

ふれあい遊びを通して周りの友達と遊んでいるうちにだんだんと意欲的に関われるようになってきて友達との絆や繋がりができていく。

○活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

他者と協力する態度《協力》

クラスの友達と歌に合わせて手をタッチするふれあい遊びを通して、一緒に遊ぶ友達を自分で選択する、目の前の友達の表情や動きから気持ちを読み取ろうとして息を合わせようとする。

つながりを尊重する態度《関連》

ふれあい遊びで色々な友達と触れ合うことで相手とのつながる嬉しさを感じられること。

コミュニケーションを行う力《伝達》

決められた人数で組むとき「あと1人いけるよ」など友達に伝わるように言葉や態度で伝えようとする力。

○ESD で育てたい価値観

幸福感に敏感になり、幸福感を重視する

クラスのみんなとするふれあい遊びを通して友達の顔の表情を見て、手を触れ合うことで楽しいと感じる。

○貢献できるSDGs

【目標4】教育【目標17】グローバル・パートナーシップ

8. 展開

時間	予想される活動（子どもの活動）	教師の配慮及び援助
0分	<p>○「トントンパ」の3拍のリズムで手を叩いて、自分の体をタッチする。</p> <p>○「キラキラ星」の歌に合わせて3拍のリズムで手を叩く。（1人）</p> <p>○今度は2人組になって向かい合わせて友達と「キラキラ星」歌に合わせて手を叩く。</p>	<p>▲子どもに見える位置で「トントンパ」の3拍のリズムが身近に感じられるように「トントンあたま」、「トントンかた」などまずは自分の体に触れることから始めることを伝え、子どもと一緒に自分の体の部位にタッチする。</p> <p>▲子どもが3拍のリズムを掴めてきたことに自信を持ってもらえるように保育者と同じ動きができていることに対して「みんなよく見てるね」などと言葉を掛ける。</p> <p>▲加配が必要な子どもも目で見て、動いてやってみて楽しめるようにわかりやすく真似しやすい動きをする。</p> <p>▲遊びに気持ちが向かない時は無理強いせずに、参加できそうな場面で保育者や友達と一緒に遊べるように状況に応じて声を掛ける。</p> <p>▲友達と触れ合う前段階としてゆっくりのテンポで歌と「トントンパ」の3拍のリズムを合わせてまずは1人であることを伝え、保育者は前で見本を示す。</p> <p>▲少しだけ前の友達に当たらないように間隔を空けるように声を掛ける。</p> <p>▲色んな人と触れ合うため誰でもいいので2人組になるように伝え、相手が見つからない時「他に1人の人いないかよく見て探してね」と声を掛ける。</p>

<p>20分</p>	<p>○3回ほどメンバーを変えて繰り返す。</p> <p>○3, 4人で触れ合う。</p> <p>○楽しかったことを振り返る。</p>	<p>▲実際にやる時は、さっき1人でしていたことを友達とすることを意識できるように視覚的にわかりやすいように子どもを例として保育者と一緒しているところを見せる。</p> <p>▲目の前の友達とやってみたいと思えるように楽しそうな雰囲気保育者は見本を示していく。</p> <p>▲2人組は色々な人と関わってほしいのでその都度メンバーを変え「さっき組んだ人以外の友達を探そう」などと声を掛ける。</p> <p>▲色々な人と触れ合うことの楽しさを味わうことがより一層感じられるように人数を増やしても大丈夫そうだったら4人まで増やしてみる。</p> <p>▲自分の体をタッチして遊んだり、色々な友達と2人組になってタッチしたりして楽しかったかなど簡単に遊びを振り返って活動を終わる。</p>
------------	---	---

◎実際の子どもの姿

友達と触れ合う前にまずは自分から



まずは、「トントンパ」のリズムに合わせて自分の体（頭、肩、顔、お腹、膝など）をタッチして遊ぶと保育者が前で一緒にやってみると視覚的にも捉えやすかったのかほとんどの子どもが楽しんで参加していた。段階を踏んで「キラキラ星」の歌に合わせてまずは1人でやってみると歌は、あまり歌ってはいなかったが単純な動きでわかりやすかったのかほとんどの子どもが保育者の声を聞いて、周りの動きもよく見て真似っこを楽しんでいる様子が見られた。

2人組になって遊ぶ



気の合う友達を自分で探して2人組になり、友達と一緒に触れ合うことができ嬉しそうな様子だった。色々な友達と関わってほしいと言う保育者の願いから「さっき組んだ人以外の友達を探そう」と言葉掛けすることで何回か繰り返していると気の合う友達以外のクラスの人と触れ合っていた。ペアが見つからないとき自分で声を掛けて探しに行ったり、友達が声を掛けたりする姿があり、相手が見つからないときは、次の人という風に切替が早くなった。歌に合わせて友達の手をタッチをする時お互いに友達に合わせようとしていた。相手を思いやる気持ちが遊びを通じて育ってきている。

3人組になって遊ぶ



気の合う友達や自分の近くにいる友達と組んで触れ合っていた。3人組にしてから手のタッチの仕方に色々な動きが出てきて、保育者がモデルで示した動きと全く同じ動きをするグループや隣の友達にタッチしようと息を合わせようとする動きもあった。息を合わせる難しさも感じつつ友達と触れ合うことを楽しんでいた。

4人組になって遊ぶ

隣の友達と触れ合うことの面白さや楽しさを掴んできたので4人組も挑戦。グループで一緒になった友達同士で横ではなく目の前の友達とタッチする、4人いるので交差するというような少し複雑なタッチの仕方を考えていた。やってみて面白い、聞いてほしいと思ったのか保育者に知らせてきた。子どもの声を全体に知らせたところ自然と他のグループを真似てみようとしたり、自分の考えを言葉や動きで友達に伝えようとしたりする姿があった。動きや触れ合いを楽しむだけでなく、人に伝えること相手の話を聞くことも少しずつできるようになっていた。この活動がきっかけで友達の新たな一面を発見することができたのか好きな遊びをしている時も一緒に遊んでいる姿も増え、関係の広がりも見えてきた。

